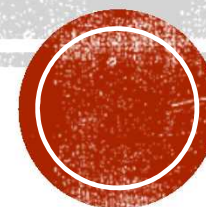


許可・登録を要しない運送を 住民主体でおこなう際の課題



我々町田市南第3高齢者支援センター（地域包括）では高齢者人口の増加とともに、住み慣れた地域で暮らし続けるために移動支援の必要性を強く感じていました。町田市ではその必要性を市全体の課題と捉え、地域で支え合える住民主体の移動支援の活動創出のための取り組みを進めてきました。



町田市南第3高齢者支援センター 生活支援コーディネーター

鞍掛台買い物・外出支援プロジェクト（アドバイザー：全国移動ネット）

くらちゃん号

地域課題：坂の上の住宅地の鞍掛台地区（町田市成瀬）では外出が困難な高齢者が増えていた。



住民が事務局となり、地域の3つの社会福祉法人（高齢者・障がい者施設）のデイサービスの車両の空き時間で無料周回車両を運行。

成瀬コミュニティセンター ↔ 坂の上の4つの停留所

毎週火・金の午前中

地域の方なら誰でも利用できる



継続して運営していくための 今後の課題



- 車両（保険含む）とドライバーは社会福祉法人が負担
- 初期費用・事務費用は補助金と自治会からの援助で賄っているが、今年度で補助金が終了となる



許可・登録を要しない運送では、基本的に運賃が取れないため収入を得る方法がない



今後事務的な運営費用をどうするかが課題！



成瀬お助けたい（アドバイザー：全国移動ネット）

地域課題：高齢になると日常生活の中で今まで出来ていたことが出来なくなり、ちょっとした困りごとが増えてくる。

日常生活上のちょっとした困りごとを、地域に住む有償ボランティア（サポーターズ）がお手伝いする生活支援活動。

※今までは移動支援はハードルが高くおこなっていなかった。

※現状では町田市内の生活支援団体ネットワークに参加している生活支援団体で移動支援をおこなっている団体はない。



地域支え合い型ドライバー養成研修（福祉有償運送運転者講習＋α）

1層コーディネーターが開催（全国移動ネットへ委託）



生活支援一体型：許可・登録不要で移動支援をおこなう際の課題

運送に関する固有の対価の負担を求められない

- ①ガソリン代
 - ②保険料
- ←お助けたいから負担しなければならない！

依頼が増えれば増えるほど赤字になってしまう



支え合いの活動として地域住民とともに許可・登録を要しない運送で移動支援に取り組んだ中で感じた課題

移動支援はその他の生活支援に比べてハードルが高い！

- **道路運送法の壁がある（分かりづらい法制度のグレーゾーン）**
基本的に対価を取れないため収入が確保できず、支援をおこなう側が負担をしなければならないため運営の継続性が保てない
- **事故のリスクがある（リスク管理には費用が掛かる）**
民間の保険などが対応し始めているが、どちらにしても保険料の負担が大きい



現行の法制度では

地域住民が主体となって移動支援をおこなうにあたって、支援者側の不安と負担が大きい



支援者側の持ち出し（善意の負担）
に頼らざるを得ないため、持続可能な仕組みとなっていない！

